

JR西3首脳辞任へ

社長「しかるべき時」

脱線で引責

対応や再発防止の取り組みに一定のメドがついた段階で辞任する意向を示した。

南谷会長は17日夜、記者団に対して「批判を受けても、使命をまっとうしたい」と話し、早期の辞任には否定的な態度を示したが、会長職を退くことは不可避とみられている。

垣内、南谷の両氏については当面、経営陣に残り、事故対応に専念する案も浮上している。

107人の犠牲者を出したJR宝塚線(福知山線)の脱線事故を受けて、JR西日本の井手正敬取締役相談役(70)が、6月末の株主総会で取締役を退任する意向を固めたことが17日分かった。経営責任については、垣内剛社長(61)も同日の参院国土交通委員会で、事故対応にメドがついた時点で辞任する意向を示した。南谷昌二郎会長(63)も「けじめをつけたい」と語っており、3首脳が退く見通しとなった。

11・29・30面に関係記事

先し、「改革に取り組むことが責任のあり方だ」と進退の表明に慎重な姿勢を見せていた。

しかし、17日の参院委員会では、末松信介氏(自民)の「いつのタイミングで社長としての責

井手相談役は6月末

井手氏は92年に社長に就任。97年から03年までは会長を務め、経営の最高責任者の立場にあっ

た。87年の旧国鉄分割・民営化を推進。JR東日本の松田昌士会長、JR東

海の葛西敬之会長とともに「国鉄改革3人組」と呼ばれた実力者だった。また、垣内社長はこれ

まで、事故への対応を優